

広島県医師会被爆伝承コーナー 令和5年8月6日企画特別展示式

－被爆者と医師、太平洋を越えて－

と き 令和5年8月6日(日) 午後1時

ところ 広島県医師会館 広島県医師会被爆伝承コーナー



広島県医師会	会 長	松村	誠
広島県医師会	副 会 長	岩崎	泰政
広島県医師会	副 会 長	玉木	正治
広島県医師会	常任理事	茗荷	浩志
広島県医師会	常任理事	檜山	桂子
広島県医師会	常任理事	平川	治男
広島県医師会	常任理事	天野	純子
広島県医師会	常任理事	平尾	健



左：特別展示式のポスター、右上：式典参列者、右下：新たに追加された展示物が掲示された被爆伝承コーナー

被爆地広島医療従事者が体験した被爆の実相を後世に伝えるために、令和4年8月4日に新設した広島県医師会被爆伝承コーナーに、このたび在外被爆者健康相談等事業に関する資料を加え展示することになった。その展示式を原爆の日（令和5年8月6日(日)）、広島県医師会館1階ホワイエにおいて、「広島県医師会被爆伝承コーナー令和5年8月6日企画特別展示式」と題し開催した。岩崎泰政副会長の司会で、松村誠会長の開会挨拶の後、来賓の北原加奈子広島県健康福祉局長、岩崎学広島市健康福祉局保健医療担当局長、鎌田七男広島大学名誉教授、田代聡IPPNW日本支部事務総長、東幸仁広島大学原爆放射線医科学研究所長、山本匡広島市医師会会長より挨拶をいただいた。また、サーロー節子様からのビデオメッセージを放映した。続いて、久保田明子広島大学原爆放射線医科学研究所助教から、追加展示した北米被爆者健康相談等事業の資料と南米被爆者資料（在ブラジル原爆被爆者協会の資料）の紹介が行われ、最後にチェロ奏者の熊澤雅樹様による演奏が行われた。

当日は、報道3社（新聞社2社、通信社1社）が出席し、新聞やWebニュースなどで広く取り上げられた。

開会挨拶 (要旨)



広島県医師会会長
松村 誠

皆さま、こんにちは。本日はこの特別展示式にご出席を賜りまして大変ありがとうございます。特に広島県健康福祉局の北原加奈子局長、広島市健康福祉局保健医療担当の岩崎学局長をはじめ多くの来賓の方にご出席いただきまして、ありがとうございます。うれしい限りです。まさに78年前の今日、この広島で大変悲惨なことが起こりました。多くの医療従事者が被爆で亡くなりましたが、その中で生き残った医師をはじめ医療従事者は、被爆し負傷している身でありながら、自らを顧みることなく、救護所に押しかけた多くの被爆者の救護にあたりました。その姿こそが、私たちヒロシマの医師、医療従事者の原点だと思います。そのようなことがあればこそ、今日まで、被爆医療、そして被爆者支援、さらにはこのような被爆体験の伝承を続けている訳です。まさに今日は、私たちが忘れることのできない1日であり、そのような日に、被爆伝承コーナーの特別展示式をすることができました。海外の被爆者を私たちは忘れることはないという思いを込めた企画です。広島県医師会は昭和52(1977)年から在米被爆者健診事業、そして昭和60(1985)年から在米被爆者健診事業に参加しています。このような歴史の中で、特にブラジルでは在ブラジル原爆被爆者協会の方々に健診事業にご尽力をいただきましたし、平和活動もされておられました。われわれと共にブラジル被爆者を支援してこられた在ブラジル原爆被爆者協会は約40年の活動を終え、その貴重な資料を本会に寄贈いただきました。寄贈に当たり、本日、ご参加いただいております広島大学の鎌田七男名誉教授にも大変ご尽力を賜りました。また、広島大学原爆放射線医科学研究所の東幸仁所長、久保田明子助教のおかげをもちまして、解析・分析が完了した一部を展示することができました。

本日は私たちは、海外の被爆者もわが国の被爆者も同じ被爆者として同じ支援を続けていくということの確約をしたいと思います。この特別展示式を境に、なお一層、ヒロシマの原点を忘れることなく、私たちは被爆者支援を続けていきたいと思ひます。本日はご出席いただき誠にありがとうございます。

来賓挨拶 (要旨)



広島県健康福祉局長
北原 加奈子

広島県医師会被爆伝承コーナー令和5年8月6日企画特別展示式の開催に当たり、ご挨拶を申し上げます。

在外被爆者に関する資料の収集、展示にご尽力されました広島県医師会の松村誠会長をはじめ、広島大学原爆放射線医科学研究所などの関係の皆さま、そしてたくさんの貴重な資料を収集、保存していただいた在ブラジル原爆被爆者協会の皆さまに心から敬意を表します。

ブラジルをはじめ、在外の被爆者団体は、言葉が通じず、文化の異なる国にお住まいの被爆者の相談に応じたり、被爆者援護法の枠外におかれた被爆者の実状を国に訴えるなど、援護の拡充のための活動を続けられてきました。

これらの活動が後押しとなり、国外にお住まいの被爆者については、平成17年から手当、平成20年から被爆者健康手帳、平成22年から原爆症認定等について、在外公館で申請していただけるようになりました。また、平成28年からは、法に基づく医療費の支給が可能となり、さらに、平成31年から、ブラジルにおいては、現地医療機関の協力により、窓口での負担なく医療が受けられるようになるなど、段階的に在外被爆者への援護制度が改善されてきたところでございます。

在外被爆者のこうした援護につきましては、広島県医師会の皆さまが昭和52年に在米に医師を派遣して実施していただいた、被爆者健康相談等事業が源流となっております。被爆者の皆さまは、先生方の広島弁での健康相談を大変喜ばれており、原爆による健康不安の解消に役立っていただいているところでございます。

本県といたしましても、高齢化が進む国内外の被爆者の援護のさらなる充実のために努力してまいりますので、引き続き、ご支援・ご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

広島県医師会のますますのご発展、そしてご参会の皆さまのご健勝・ご活躍を心からお祈り申し上げます。本日は誠にありがとうございます。



広島市健康福祉局
保健医療担当局長
岩崎 学

広島県医師会被爆伝承コーナー令和5年8月6日企画特別展示式の開催に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。広島県医師会の皆さま

まにおかれましては、日ごろから本市の保健・医療・福祉行政の推進に、ご協力とご理解をたまわり、この場をお借りして厚くお礼を申し上げます。さて、78年前の今日、原子爆弾が人類に向けて初めて広島の街に投下され、日常は地獄絵図に一変し、罪のない数多くの尊い命が奪われました。被爆者の皆さまは悲しみに耐え、憎しみを乗り越えて「こんな思いは他の誰にもさせてはならない」と訴え続けてこれられました。その思いを伝え続けていくことは、本市に課せられた重要な使命だと考えております。

本年5月にG7広島サミットが開催されましたが、限られた時間の中で被爆の実相に触れた各国首脳は、資料館訪問後の芳名録に、核兵器のない平和な世界への願いを込めたメッセージを残されました。全人類の共存や繁栄を願う「ヒロシマの心」は各国首脳の心に深く刻まれたと信じていると思っております。またこうしたことから国内外の方々に広く被爆の実相を知っていただくことの意義や重要性を改めて強く感じているところでございます。

このような中、昨年8月に開設されたこの被爆伝承コーナーにおいて、このたび、在ブラジル原爆被爆者協会により寄贈されたブラジル国内の被爆者名簿や手記、写真などの資料が特別展示されることは被爆の実相の一つとして、母国から遠く離れた地において、健康不安を抱えながら暮らし、支援を求めたブラジルの被爆者の皆さまの思いを多くの方々に知っていただき、また、後世に伝える貴重な機会になるものであり、大変意義のある取り組みであると考えております。

皆さまにおかれましては、今後とも被爆の実相を守り、多くの方に広め、次の世代に伝えていく取り組みに、引き続き本市と共に取り組んでいただけることを心から期待しているところでございます。

終わりに、広島県医師会のご発展と本日お集まりの皆さまの今後ますますのご健勝・ご活躍を祈念いたしまして、私からのご挨拶とさせていただきます。



広島大学名誉教授
鎌田 七男

本日、「被爆者と医師、太平洋を越えて」という特別展示式が行われることを関係者の一人として大変ありがたく、そして感謝しているところです。既に松村

誠会長の挨拶や展示物にありますように在北米被爆者協会とは約45年、また在南米被爆者協会とは約35年の交流がありますが、北米・南米被爆者協会とも新型コロナウイルス感染症の影響や被爆者の高齢化により弱体化化してきております。特にブラジル被爆者平和協会は3年前に解散することになりました。渡辺淳子元事務局長とは20年来の交流があり、ぜひブラジルの資料を広島に譲ってもらえないかとお願いしましたところ、森田隆元会長も快諾してくださいました。そして、今年の3月に6つの箱にまとめられた資料が広島に送られてきました。広島県医師会が所有し、広島大学原爆放射線医科学研究所が内容を研究・解析するという分担になっています。

在外被爆者は日本の被爆者と同様の支援をしてもらえるように多大な努力をされてきました。例えば、日本を離れると被爆者手帳が無効になる、あるいは医療援助に制限がある、海外からの認定疾患申請が困難であるなどです。在外被爆者は、「被爆者はどこにいても被爆者」であり、日本と海外の差別をなくすように訴えました。現在、格差はなくなっておりますが、その訴えの原点が今回送られてきた資料の中に入っています。今後、これらの資料をもとに医学の面、医療の面、社会的環境の面で、国内被爆者と在外被爆者の比較という方向で、解析がなされていくことと思います。そして、この解析結果がこの展示場に展示されることを期待しております。

IPPNW日本支部事務総長
田代 聡



広島県医師会被爆伝承コーナーが設置され1年が経過したところで、このような素晴らしい特別展示式を開催することができました。この開催は日本が国際

的に非常に大きな貢献をしている、それも被爆者の医療を通してということが非常に大きなと

ころです。これは核戦争防止国際医師会議(IPPNW)の立場からしても非常にアピールできることです。開催に向けて松村誠会長のリーダーシップのもとで鎌田七男名誉教授がご尽力されて、それを広島県医師会の方が本当に大変な努力をしてここまで持ってこられました。本当にそのご努力に敬意を表します。広島からどのようなことが被爆の実相につながるのか、あるいはどういうことを広島の医療従事者が行ってきたのかということを世界に向けて発信することは非常に大きなアピールとなり、さらにはこれが広島の役目であると思います。IPPNWは、世界の100以上の医学雑誌に掲載されています。そこでは核戦争のリスクをどのような方法で軽減するか、これに医療従事者がどのように関われるかということが書かれています。このような活動の中でも被爆資料の展示を広島県医師会に行っていただくということは非常に大きな意味を持っていると思います。今後、このような活動がますます広島から発信されることを期待しています。



広島大学
原爆放射線医科学研究所長
東 幸仁

今日は、機会がありまして平和記念式典、大学での式典に参加してまいりました。78年前の今日8月6日に、あってはならない惨禍がもたらされました。このような過ちを人類は、2度と繰り返してはならないことを改めて強く認識いたしました。今回は、大変貴重な在ブラジル被爆者の方々の資料の特別展示であります。この特別展示に関しましては、在外被爆者問題に長年取り組まれてきた鎌田七男広島大学名誉教授、広島県医師会会長松村誠先生方のご努力のたまものであります。原爆放射線医科学研究所といたしまして、被ばく資料調査解析部が、資料の解析、展示の一部に関わらせていただきました。私たちが決して忘れてはならない歴史的瞬間である広島における原爆投下の被害と、その後の医療従事者たちの尽力をたたえ、伝えるために設けられたものと思います。被爆者とその家族に寄り添い、その経験から学び、未来へとつなげるために、私たちはこの場を大切にしていきたいと思います。被爆医療の歴史は、多くの苦難と挑戦を克服してきた医師や看護師、

そして支援する全ての方々の努力によって築かれてきました。皆さまの奉仕精神と尽力は、私たちにとって大きな教訓となるべきものです。被爆者の方々と向き合いながら、医療の進歩と共に進化する医療体制の必要性も感じており、これからも原爆放射線医科学研究所といたしまして、その改善に全力を尽くしていく決意です。今回の展示を通じて、国内だけではなく、在外被爆の現実をさらに直視し、その影響を未来につなげることの重要性を考える機会になると信じております。被爆伝承の重要性を共有し、次世代にそのメッセージを届けていくために、皆さまのご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。最後になりますが、被爆者の方々やそのご家族に心からの敬意と感謝の意をささげ、これからも平和と医療の向上に尽力していく覚悟を新たにします次第です。



広島市医師会会長
山本 匡

昨年8月4日、広島県医師会被爆伝承コーナーの開設挨拶で、松村誠会長は「自らが被爆しているにもかかわらず、被爆者の救護や治療に全力を尽くした医師たちはヒロシマの医療の原点である。そういった医師たちがいかに原爆に向き合ったか、そして医療者としての使命を全うしたか、それを伝えていきたい」と述べられました。原爆が投下され、惨状となった広島で辛うじて生き残った医師たちは満足な設備や医薬品もない状況で懸命に治療を続けました。

しかし、78年が過ぎることで、実際に被爆を体験された方々は年を経るごとに少なくなり、当時の様子を伝える資料も失われてしまいます。そのような危機感から、一昨年広島県医師会が会員に呼びかけ、当時の広島医師たちの医療活動を伝える貴重な資料がこの被爆伝承コーナーに集められました。私たち広島医師は自らの健康も顧みず、自ら被爆しながらも医療活動を行った先人たちの活動を知ることにより、医師として果たさなければならない責務を改めて認識し、その精神を受け継いでいかなければなりません。今春、在ブラジル原爆被爆者協会から被爆に関する貴重な資料を受け継ぎました。これまでの資料に加え新たな資料を展示することは原爆被害の実相を明らかにするものと考え

ます。広島県医師会による被爆医療の伝承は核兵器がいかに非人道的な兵器であり、その惨状を風化させてはいけない、そしてそれを次の世代に伝えることにより核廃絶の足がかりにしようという、松村会長をはじめとする広島県医師会の皆さま、鎌田七男名誉教授をはじめとする広島大学の皆さまの強い思いを感じます。広島市医師会はこのような活動に倣い広島県医師会、広島県、広島市、広島大学、IPPNW等の関係者団体と連携しながら核廃絶と恒久平和に向けて活動してまいりたいと思います。

終わりに、広島県医師会のますますのご発展と本日ご臨席の皆さまのご健勝とご活躍を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

サーロー節子様からの ビデオメッセージ紹介

私は何十年の間、カナダのトロントに住んでいます。反核運動でアメリカやヨーロッパのさまざまな国を訪問し、反核運動に加わっている

皆さまと親しくしています。日本で反核運動のリーダーシップをとっているヒロシマのお話を聞いて、本当にうれしく思っています。

特に医師として海外に住んでいる私たちの健康管理についてご配慮いただいているということはありがたいことです。さまざまな国で生活している被爆者の健康のために、広島から医師が出向いてくださって、一人一人の健康相談をしていただいていることが何十年も続いていると思うと本当に感謝しかありません。在ブラジル原爆被爆者協会は長年にわたり被爆者の救済を求めて、広島、長崎、日本政府に要望の運動をされていました。

在ブラジル原爆被爆者協会の資料が広島県医師会に保管されることは、広島県医師会が海外の被爆者を支えたという証明にもなりますし、日本の皆さまにその資料を見ていただき、被爆者の感謝の気持ちを知っていただくことになります。現在も苦しんでいる被爆者がいらっしゃるので、引き続き、在北米・在南米被爆者健康相談事業を続けていただきたいと思います。



ビデオメッセージを贈ってくださったサーロー節子様

新コーナー紹介



広島大学原爆放射線医科学研究所
附属被ばく資料調査解析部助教
久保田 明子

広島県医師会被爆伝承
コーナーの特別展示の資料
には2つの特徴があります。

1つは被爆者はどこにいても被爆者であり、被爆の経験がよく分かる、被爆者はどこにいても過酷であるということが分かる資料であることです。2つ目はもちろん原爆・被爆の資料は被爆者が最も大変であったこと、また過酷であったことを知ることになる訳ですが、今回はその被爆者に対して広島の医師あるいは広島県の行政、広島の医学研究者がどのように関わったということが分かる資料であることです。つまり被爆者の思いも伝わり、被爆者の方が熱望していた医療の充実、支援ということに対して、広島の医師がいかに尽力したか、行政が立ち向かったかが分かる資料展示となっています。被爆当時は医師も大変でした。資料を見て、思いをいただければ、医師の大変さが分かります。

追加資料は2つのガラスケースに展示しまし

た。北側が北米関係で、南側が南米関係です。北米関係の資料には広島県医師会が保存した資料の一部があります。南米被爆者の活動は北米被爆者の活動を参考にしているので、そのような流れも感じていただきたいと思います。北米のケースは右から見ていただき、1番左側に北米の被爆者協会の調査書の原本を展示しています。これは在ブラジル原爆被爆者協会から寄贈していただいた資料です。

つまり南米被爆者協会は先に被爆者団体が出来上がっていた北米被爆者協会の活動を参考にしていたことが、資料から分かります。そして南側にあるのが、南米被爆者協会の資料です。メインは1988年の実態調査の原本です。この調査結果については、一部活字として報告されていますが、被爆者が直筆したものを展示しています。この実態調査は南米の被爆者が医療を受けたい、日本語で医師にいろいろな話を聞いてほしいということを実現するために協会が調査を行ったものです。結果をみれば、広島の医師がどのように関わったかということにつながります。まさに広島県医師会で保管・展示できることは理にかなっており、展示は大変意義があると思います。



今回新たに追加された展示物（左：北米健診関係資料、右：南米被爆者資料（在ブラジル原爆被爆者協会の資料））

閉会挨拶



広島県医師会常任理事 茗荷 浩志

8月6日は広島にとってもっとも大切な日であり、多くの場所で式典などが行われていると思います。そのようなお忙しい中、参集いただきありがとうございます。

ます。

最後に1つお願いがあります。皆さま、職場に戻られたら、職場の方々にぜひ、1度はここを訪問するようにお声がけいただきたいと思います。広島大学の先生も、ぜひ学生の方々にご紹介ください。広島の医師の軌跡がよく分かる場所ですので、ぜひよろしく願いしたい。

担当役員コメント

昭和20年8月6日に広島に人類史上初の原子爆弾が投下されたが、医療関係者においてもその後の長い月日や世代交代のために、被爆の貴重な資料の散逸や風化が懸念されていたことから、本会会員に被爆関連資料の提供をお願いし、当時の死亡診断書やカルテ、証言など多くの資料を提供いただいた。原爆投下によって当時の医療従事者がどのように被爆の惨状に向き合い、

また関わったかを次世代に伝承するため、これらのご寄贈いただいた貴重な資料を、広島県民はもちろん県外や国外から広島を訪れた方々にご覧いただき、被爆の実相を少しでも知っていただけるように、常設展示する「広島県医師会被爆伝承コーナー」を昨年8月4日に広島県医師会館1階ホワイエに新たに設置した。

その後、広島県と広島県医師会が継続して行っている在外被爆者健康相談等事業に関して、3年前に解散した在ブラジル原爆被爆者協会より、先日貴重な資料を提供いただき展示品に加え、被爆78年を迎える本年の原爆の日に「広島県医師会被爆伝承コーナー令和5年8月6日企画特別展示式」開催の運びとなった。

式では広島県、広島市、IPPNW日本支部、広島大学原医研、広島市医師会の各関係者に加え、ビデオでカナダ在住の反核運動家のサーロー節子様より祝辞をいただき、最後に今回追加となった在北米と在南米被爆者健康相談等事業の資料展示品の解説を行った。当日はマスコミにも取材いただき被爆資料へのマスコミの関心度の高さが伺えた。今後もより多くの方々にぜひ伝承コーナーに足を運んでいただき、医療従事者が体験した被爆の実相に接することを期待する。また今後もさらに展示内容の充実を考えているので、会員の皆さまにもご協力をいただきたい。

(岩崎 泰政)

◆ 第70回杏林画会展のお知らせ ◆

原爆投下で焦土と化した戦後間もない広島に、復興の希望として立ち上げられた医師によるお絵かきの同好会が杏林画会です。このたび第70回目の開催を迎えます。広島県医師会員の先生方には、ぜひお立ち寄りいただけますと幸いです。

第1会場 広島県立美術館 地下 県民ギャラリー1号室
令和5年9月19日(火)～9月24日(日)
9:00～17:00

第2会場 広島県医師会館 1階 ロビーホワイエ
令和5年9月26日(火)～10月11日(水)
9:00～17:00

主 催 杏林画会 後 援 日本医家芸術クラブ広島支部